

TR-IT-0220

ATR 音声言語データベース  
日本語依存構造・格構造データファイルの作成

Building Japanese Dependency and Case Structure Files  
for the ATR Speech and Language Database

荒川直哉  
ARAKAWA Naoya

1997年5月

概要

本レポートではATR音声翻訳通信研究所の旅行会話音声言語データに対する依存構造解析および格構造解析作業、さらにそれらの作業によって作成されたデータについて述べる。

依存構造解析とは、構文解析結果を、主辞・従部関係を明示するような構造へ変更することを指す。依存構造解析の出力形式は、格解析をはじめとするさまざまな意味解析による情報付加を容易にするために、拡張された素性構造としてある。

格構造解析とは、依存構造解析結果中の用言の各格要素に対して深層格ラベルを与える作業を指す。格構造データファイルは意味解析研究の基礎データとすることを目的に作成された。

© 株ATR音声翻訳通信研究所 1997

© 1997 by ATR Interpreting Telecommunications Research Laboratories

## 目次

1	まえがき	1
2	依存構造解析	1
2.1	仕様	2
2.1.1	依存構造データファイルの形式	2
2.1.2	依存構造解析規則	4
2.1.3	<名詞句>の扱い	5
2.3	作業手順	6
2.3.1	依存構造解析プログラム実行	6
2.3.2	活用タイプ・サ変名詞動詞用法マーキングプログラム実行	6
2.3.3	活用タイプ修正	6
2.3.4	部分木併合	6
2.3.5	TYPE-5 処理	7
3	格構造解析	8
3.1	述語の認定	8
3.2	深層格	8
3.3	助動詞「れる／られる」の用法のマーキング	9
3.4	省略格付与	10
3.5	依存構造データへの格ラベル記述	12
3.6	問題となる述語の扱い	14
3.6.1	「だ／です」	14
3.6.2	「する」(「いたす」)	17
3.6.3	「なる」	19
3.6.4	「願う」	22
3.7	形容詞、形容名詞の格パターン	27
3.8	日本語基本辞書：動詞編(「動詞辞書(VER. 2)」)と異なる格名を付与した述語	29
	参考文献	31
	付録	32
1	依存解析ルール	32
2	並立句構成要素の部分木の修飾先	40

## 1 まえがき

本レポートではATR音声翻訳通信研究所の旅行会話音声言語データ(SLDB; 618 対話)[1]に対する依存構造解析および格構造解析作業、さらにそれらの作業によって作成されたデータについて述べる。

このレポートで依存構造解析とは、構文解析結果(句構造)を、主辞(head)・従部(dependent)関係を明示するような構造へ変更することを指す。依存構造解析の出力形式は、格解析をはじめとするさまざまな意味解析による情報付加を容易にするために、拡張された素性構造としてある。

このレポートで格構造解析とは、依存構造解析結果中の用言の各格要素に対していわゆる深層格を明示する情報(深層格ラベル)を与える作業を指す。深層格の情報は述語とそれ以外の文の構成要素の意味的な関連を明かにするために役立つ。すなわち、格構造解析データは意味解析研究のための基礎データとなる。

日本語依存構造・格構造データファイルはそれぞれ /DB/SLDB/LNG/DEPEN および /DB/SLDB/LNG/CASE に納められる。

## 2 依存構造解析

依存構造解析は、構文解析の結果を主辞・従部関係を明示するような構造へ書き換える作業である。解析対象となるデータは、音声言語データベースの構文解析情報データファイル(JTREE)[文献1,6]である。1つの句構造の娘ノードの中で、主たる意味的情報を運ぶ語(主辞)を持つノードを主ノードとし、他のノードを従部とすることにより、主辞・従部関係の解析を行う。この際、主ノードの主辞が親ノードの主辞になる。主辞・従部関係は、親娘ノードの統語的カテゴリにより自動的に決定されるため、依存構造解析の大部分は後述する依存構造解析プログラムによって行われる。ただし、入力となる構文木が発話の非文法性などにより句構造を形成しない(いわゆる部分木である)などの場合には、手作業による依存構造解析が必要になる。

出力形式は拡張された素性構造とした。ここで素性構造とは、素性名と素性値の対のリストで表わされるような構造である。素性値の部分には素性構造が来ることもできるので、素性構造は入れ子型の構造を表現することができる。また、素性構造は、素性名・素性値の対を数や順序の制限なく記述できるので、格解析をはじめとするさまざまな意味解析による情報付加を容易にする柔軟な情報表示形式だといえる。ここで使用する素性構造は、複数の同じ素性名を素性構造の同一レベルに記述できるように拡張してある。

例:

```
[[ヘッド [[見出し 食べ]
          [品詞 <本動詞>]]]
 [引数 [[ヘッド [[見出し を]
                [品詞 <格助詞>]]]
       [引数 [[ヘッド [[見出し ドーナツ]
                       [品詞 <普通名詞>]]]]]]]]]
 [引数 [[ヘッド [[見出し が]
                [品詞 <格助詞>]]]
       [引数 [[ヘッド [[見出し わたし]
                       [品詞 <代名詞>]]]]]]]]]
]
```

ここで、素性名「引数」は素性構造の同一レベル(最初のレベル)に2つ現われている。通常用いられる素性構造では複数の同じ素性名が素性構造の同一レベルに現われることはない。複数の同じ素性名が素性構造の同一レベルに現われることを禁止すると、上の(拡張)素性構造は、次のよう

なやや煩雑な形式になる（実際、上の例は下の表記の略式の記法だとみなすこともできる）。

```
[[ヘッド [[見出し 食べ]
  [品詞 <本動詞>]]]
 [引数 (:arg [[ヘッド [[見出し を]
  [品詞 <格助詞>]]]
  [引数 [[ヘッド [[見出し ドーナツ]
  [品詞 <普通名詞>]]]]]]]]]
 [[ヘッド [[見出し が]
  [品詞 <格助詞>]]]
  [引数 [[ヘッド [[見出し わたし]
  [品詞 <代名詞>]]]]]]]
 )
 ]]
```

依存構造データファイルには、本動詞の活用タイプ、および語の出現順序を示すインデクスが埋め込まれている。構文解析情報データファイルには活用タイプ情報がないが、意味解析において用言辞書とのマッチングが必要になるため、本動詞を同定するための活用タイプ情報を主辞部に与えた。この作業は、形態素情報ファイルを参照しつつプログラムで自動的に行い、問題のある部分は手作業で修正した。また、依存構造解析において語の出現順序の情報が失われるので、発話中の語の出現順序情報をインデクスの形で与えた。インデクスの埋め込みは依存構造解析プログラムが行う。

また、サ変名詞の動詞用法に対しては活用タイプを与えるプログラムで主辞部に素性 [動詞 +] を与えている。

## 2.1 仕様

### 2.1.1 依存構造データファイルの形式

依存構造データファイルの形式は次のように表わされる。

依存構造データファイル ::= <発話レコード>\*

<発話レコード> ::=

( <発話 I D>

[依存構造解析出力 <依存構造>

)

<発話 I D> ::= <リテラル>

<依存構造> ::= [[見出しリスト <見出しリスト>

[品詞リスト <品詞リスト>

[index-list <index-list>

[ヘッド [[見出し <見出し>

[品詞 <品詞>

[index <N>

([活用タイプ <活用タイプ>]); <本動詞> の時のみ

([動詞 +])

; <サ変名詞> 動詞用法の時のみ

]

[引数 <依存構造>]\*

]



## 2.1.2 依存構造解析規則

依存構造解析で用いられる解析規則は、句構造解析規則に注釈を加えたもので、句構造の娘ノードのどれが主ノードになるかを指定するものである。依存構造解析プログラムは依存構造解析規則を参照しながら、構文解析データファイルを依存構造データファイルの形式に書き換える。指定されるタイプとして次のようなものが存在する。

タイプ0：句構造規則の右辺の要素の数が1つの場合で、単に右辺の要素を主ノードとする。右辺の要素の主辞を主ノードの主辞とする。見出しリスト、品詞リスト、index-list の要素は、それぞれ右辺の要素の見出し、品詞、インデクスである。

((X <--> (A)) TYPE-0) | 主辞：A

タイプ1：句構造規則の右辺の要素の数が2つで、右側の要素が主ノードとなる場合。左側の要素を右側の要素の子（娘）要素とする。右側の要素の主辞を主ノードの主辞とする。見出しリスト、品詞リスト、index-list の要素は、それぞれ右辺の右側の語の見出し、品詞、インデクスである。

((X <--> (A B)) TYPE-1) | 主辞：B

タイプ2：右辺の要素の数が2つで、左側の要素が主ノードとなる場合。右側の要素を左側の要素の子（娘）要素とする。左側の要素の主辞を主ノードの主辞とする。

日本語では、めったにないが、メカニズム上用意している。

見出しリスト、品詞リスト、index-list の要素は、それぞれ右辺の左側の語の見出し、品詞、インデクスである。

((X <--> (A B)) TYPE-2) | 主辞：A

タイプ3：右辺の要素の数が2つで、2つの要素の間に親子関係は存在しないが、意味的な中心は左側の要素である場合、2つの要素を1つのノードに併合し、左側の要素の主辞を併合されたノードの主辞とする。

日本語の句構造規則では、動詞語幹と語尾の関係がこれに相当する。

見出しリスト、品詞リスト、index-list の要素は、それぞれ右辺の2つの要素の見出し、品詞、インデクスである。

((X <--> (A B)) TYPE-3) | 主辞：A

タイプ4：右辺の要素の数が2つで、2つの要素の間に親子関係は存在しないが、意味的な中心は右側の要素である場合、2つの要素を1つのノードに併合し、右側の要素の主辞を併合されたノードの主辞とする。

日本語の句構造規則では、接頭語と名詞等の関係がこれに相当する。

見出しリスト、品詞リスト、index-list の要素は、それぞれ右辺の2つの要素の見出し、品詞、インデクスである。

((X <--> (A B)) TYPE-4) | 主辞：B

タイプ5：右辺の要素の数が3つ以上で、それらの要素の間に親子関係は存在しない場合。右辺の要素を1つのノードに併合する。依存構造解析プログラムでは、最も左側の要素の主辞を併合されたノードのデフォルトの主辞として与えるが、最終的な主辞の判定は人手によって行う。

見出しリスト、品詞リスト、index-list の要素は、それぞれ右辺の要素すべての見出し、品詞、インデクスである。

((X <--> (A B C...)) TYPE-5) | 主辞 : A

依存構造解析規則は“(規則 タイプ)”という形式で登録する(全体のリストは付録1を参照)。

【例】

((文 <--> (節 句点)) TYPE-1)  
((節 <--> (連用接続節 節)) TYPE-1)  
((連用接続節 <--> (動詞)) TYPE-0)  
((動詞 <--> (後置詞句 動詞)) TYPE-1)  
((後置詞句 <--> (名詞句 格助詞)) TYPE-1)  
((名詞句 <--> (固有名詞)) TYPE-0)  
((動詞 <--> (本動詞 語尾)) TYPE-3)  
((語尾 <--> (語尾 読点)) TYPE-3)  
:  
:  
:

### 2.1.3 <名詞句> の扱い

構文解析データファイルでは、句構造規則が内部構造まで関知しない<名詞句>(例えば「お子様」)は、次のような形式で表わされている。

<名詞句> お子様

依存構造解析の現在の仕様では、こうした<名詞句>は次のように表わされる。

[[見出し お#子#様]

[品詞 <名詞句>

]

注) この形式では意味処理で名詞句の構成要素を参照したい場合に不便なので、次のような形式に変更することを検討している(この場合、index も対応して修正されるはずである)。

[[見出しリスト (:list お子様)]

[品詞リスト (:list <接頭辞><普通名詞><接尾辞>)]

[ヘッド [[見出し 子]

[品詞 <名詞句>]

]

## 2.3 作業手順

依存構造解析は次の順序で行う。

### 2.3.1 依存構造解析プログラム実行

まず、構文解析データファイルに依存構造解析プログラムをかけて、依存構造データファイルの形式に変換する。

手順

- ・次のコマンドを実行する。

```
>dependency1 -r Rule-File-Name Input-File-Name >Output-File-Name
```

ここで、Rule-File-Name は依存構造解析規則ファイル名、Input-File-Name は構文解析データファイル名、Output-File-Name は依存構造データファイル名である。

### 2.3.2 活用タイプ・サ変名詞動詞用法マーキングプログラム実行

2.3.1 の出力に活用タイプ・サ変名詞動詞用法マーキングプログラムをかける。この操作のために、対応する形態素情報ファイルが必要である。この際、活用タイプ決定のために情報が完全でなかった部分の情報がログファイルが出力されるので、2.3.3 のために保存する。

手順

- ・入力ファイルのフルパス名のリストを作る。
- ・Lisp (SCL-4-0/lisp-4-0-base) を起動し、inf\_verb+.lisp をロードする。
- ・出力ファイルを作りたいディレクトリに cd する。
- ・関数 (inf\_verb+ "リストファイル" "ログファイル" "JMOR ディレクトリ") を実行する。

活用タイプ・サ変名詞動詞用法マーキングプログラムはサ変名詞の動詞用法を次の基準で認定する。

基準：補助動詞が後続する場合、および<格助詞×係助詞×接続助詞×引用助詞×副助詞×副詞>に依存される場合。

この基準で問題がある場合としては、次のような例が見つかっている。

THS33005-0050-1：「はい、何時の新幹線、御希望ですか。」

### 2.3.3 活用タイプ修正

2.3.2 のログファイルを用いて、依存構造形式ファイルの活用タイプをチェックし、必要があれば修正する。

### 2.3.4 部分木併合

構文解析データファイル中、句構造規則でカバーできない発話は句構造（部分木）のリストとしてあらわされている。こうした部分木のリストに対しては、依存構造解析プログラムが依存構造を決定できないため、手作業で依存構造を決定し、部分木を併合する。

具体的には、構文木ファイルに出現した部分木データを1個の依存構造データにまとめるために、まず各部分木の修飾先を指定し、各部分木の修飾先を指定した作業記録（「合成規則」とも呼ばれている）を作成する。作業記録は次のような形式を持つ。



THS13002-220-1-1,IF [TOP:それで] ,THEN 木のルートを修飾する

THS13002-220-1-2,IF [TOP:お席の方は] ,THEN 木のルートの<本動詞:なさる>の格要素になる

THS13002-220-1-3,IF [TOP:普通席とグリーン席、] ,THEN 木のルートの<格助詞:に>を修飾する

作業者は、この記事に基づき、複数個の部分依存構造データを1個の依存構造データにまとめる。並立句構成要素の部分木の修飾先の基準に関しては付録2を参照していただきたい。

合成パターンには次の種類がある。

1. [木のルートを修飾する]

接続詞、文副詞、呼びかけの語句、従属節など、文の命題外の語句の修飾先は木のルートになる。また、述語省略のために修飾先がない述語修飾語句も[木のルートを修飾する]とする。

以下の規則では、部分木の修飾先を<品詞:見出し語>で指定している。

2. [木のルートの<品詞:見出し語>の格要素になる]

後置詞句、名詞句などが木のルートの述語相当語句（本動詞、形容詞、サ変名詞、形容名詞）の格要素である場合、修飾先を<品詞:見出し語>によって指定する。

3. [木のルートの<品詞:見出し語>を修飾する]

格要素以外の述語修飾語句や並立句などの修飾先は<品詞:見出し語>によって指定する。また、木のルートの名詞句、助詞類などを修飾して、名詞句や後置詞句を構成する場合も多い。

4. [直前の部分木の<品詞:見出し語>の格要素になる]

倒置現象で、後置詞句、名詞句などが直前の部分木の述語相当語句の格要素である場合。

5. [直前の部分木の<品詞:見出し語>を修飾する]

倒置現象で、後置詞句、名詞句などが直前の部分木の語句を修飾している場合。

6. [直後の部分木の<品詞:見出し語>の格要素になる]

当該の部分木が、直後の部分木の述語相当語句の格要素である場合。

7. [直後の部分木の<品詞:見出し語>を修飾する]

当該の部分木が、直後の部分木の語句を修飾して、おもに名詞句、並立句を構成する場合。

8. [前方の部分木の<品詞:見出し語>を修飾する]

並立句、副詞句などが、2個以上前方の部分木の、おもに述語相当語句を修飾する場合。

9. [後方の部分木の<品詞:見出し語>を修飾する]

名詞句、副詞句などが、2個以上後方の部分木の語句を修飾する場合。

### 2.3.5 TYPE-5 処理

3個以上の要素を右辺に持つ句構造規則に関する依存構造解析プログラムの主辞決定は仮のものであるので、主辞を目視チェックし、必要であれば修正する。

### 3 格構造解析

ここで格解析とは、依存構造解析結果中の用言の各格要素に対していわゆる深層格を明示する情報（深層格ラベル）を与える作業を指す。格ラベルは、用言が修飾する体言的要素および、省略格（いわゆるゼロ代名詞）おにも与えられる。

なお、格構造解析データファイルは、助動詞「れる／られる」の用法についての情報も含んでいる（3.3 参照）。

#### 3.1 述語の認定

本データファイル格構造解析において述語と認定した品詞は次のとおり。

本動詞  
サ変名詞（文中で動詞として機能している場合）  
形容詞  
形容名詞  
助動詞「だ」「です」

#### 3.2 深層格

深層格とは述語の格要素の意味的な分類である。

格構造データファイルで用いられている深層格ラベル（文献 [2] 参照）は、次の通り。

[深層格]	[定義]	[例]
AGEN	有生・無生の行為主体	私が 会議に申し込む 計算機が 文を解析する
EXPR	精神的事象の体験者 被害を受ける者	母が 悲しんだ 弘が 金をなくした
OBJE	変化・移動・行為の対象 状態動詞の主体	申込用紙を 送る 会議が ある
SOUR	変化の始状態	父が 癌から 快復した 信号が 赤から 変わった
RESL	変化の結果	委員長に なる 信号が 赤へ 変わった
GOAL	行為が向かうもの	木に ぶつかる
SEPR	分離の作用の相手	危険から 身を避ける 水から 酸素を分離する
MUTL	相互動詞の相手	論敵と 対立する
RECP	所有移動における受け手	登録用紙を 事務局に 送る
ORIG	所有移動における与え手	登録用紙を 事務局から 送る
CONT	思考・発言などの内容	妻を同伴しようと思う
ROUT	移動における通過経路	公園を 通る 橋を 渡る
MANN	様態	厳しい態度で 臨む
INST	方法・手段	ワープロで 書く
MATR	材料・構成要素	葡萄から ワインを作る 3章から なる論文

CAUS	原因・理由	癌で死ぬ
PURP	目的	買い物に行く
COND	条件	無料で招待する
LOCT	場所	登録用紙に記入する
		彼の意見には偏見がある
DEPT	起点	京都駅から出発する
		この風習は仏教からきた
DEST	終点	そちらの住所に送る
TLOC	時点	会議の際に発表する
TDEP	時間的起点	9時から始まる
TDES	時間的終点	月末までに払う
ROLE	役割	講演者として参加する
ACCM	随伴者	友達と映画に行く
RANG	範囲規定	内容について質問する
COMP	比較	ビールよりワインがいい
IDEN	同一	彼の作品が金賞になった
TOPIC	トピック	私は背が高い

- ・ 提題格 TOPIC は深層格ではなく「動詞辞書 (Ver.2)」にも記載されていないが、構文上の役割として導入した。
- ・ 格名を付与する表層の補語は名詞句、後置詞句に限り、副詞句および数量詞句には付与しない。
- ・ 受身、使役表現では、述語本来の格パターンを保存する。
- ・ 通常、1つの述語は複数の同じ深層格を持つことはできないが、言い直しなどの場合には同じ深層格の重複を許している。

例： (以下の例文において、----- は格要素、==== は述語を表す)

TCS32002-0180-1 コーヒー、それもカフェインの少ないコーヒーはありますか。

-----  
OBJE

-----====  
OBJE

### 3.3 助動詞「れる／られる」の用法のマーキング

助動詞「れる／られる」用法として [被害 +]、[自発 +]、[所有物受身 +]、[婉曲 +]、[尊敬 +]、[可能 +] のうちいずれかを与える。

例：[ヘッド [[見出しられ]  
[品詞 <助動詞>]  
[index 18]  
[尊敬 +] ; <== 用法分類  
]

通常 of 受身用法は <受身助動詞語幹> <受身助動詞> 「れる／られる」によって既に指定されているのでマーキングを行わない。

[被害 +] 用法は「れる／られる」がつく動詞が本来持っていない格要素が主語になって、それが指し示すものが被る状況を示す。

例：「雨に降られた。」

[自発 +] 用法は次のように定義される。

基礎日本語文法 改定版 [7] 自発…「ひとりである状態になるという意味」  
用例…「故郷がなつかしく思われる」

大辞林 [8] 自然にそうなる意、すなわち自発の意を表す。情動的な表現に用いられることが多い。  
用例…「そういう話を聞くと、つい昔のことが思い出される」  
「あの人の生前がしのばれる遺品の数々が展示されている」

[所有物受身 +] は主体の所有するものが動作を受ける表現に与えられる。

「花子は繁華街でバッグを奪われた。」（「基礎日本語文法」）

[婉曲 +] は、次のような表現に与えられる。

TCS13024-0060-1 それでは、ミーティングルームが適切かと思わ[れ]ます。  
TCS13035-0090-1 地図がフロントに置いてございますので、ご出発の時に持って行かれるとよろしいかと思わ[れ]ます。  
TCS32007-0150-1 今はまだはっきりと申し上げられませんが、これまでの経験ですと、だいたい三百ドルぐらいではないかと思わ[れ]ます。

これらは、話者が自分の意志を婉曲化するために、思考内容が自分の意志というよりは自然に生じた（自発的である）ということ伝えているのであると解釈すれば [自発 +] とも解釈できるが、[自発 +] の通常の定義と例（上記）になじまないので区別した。

[尊敬 +] 尊敬の意を表わす場合。

注) 主語が尊敬の対象でない場合でも、[尊敬 +] を与えることがある。

例：「そのおかばんは盗難にあわ[れ]たのでしょうか。」

[可能 +] 可能の意を表わす場合。

例：「歩いて10分で行か[れ]ます。」

### 3.4 省略格付与

省略されている格要素の認定には次の情報を参照した。

- ・日本語基本辞書 (Ver.2) 動詞編 (文献 [2])  
書き言葉、話し言葉で語義が同じである述語の格ラベルは、これに基づいて付与した
- ・日本語基本辞書 (Ver.1) (文献 [3])  
「だ/です」「する」「なる」「願う」など、話し言葉に頻出する特殊な述語  
形容詞、形容名詞
- ・格構造データベースの格助詞に付与された深層格の頻度  
音声言語データベースの格助詞への深層格ラベル付けは、省略格のラベル付けに先行して行われた。そこで出現する当該の述語に対して高い頻度で共起している深層格は、一般には任意格とみなされていても、表層形を持っていない場合に省略格として認定する。

注意点

・副詞句相当語句および数量詞相当語句

格名を付与する表層の補語は名詞句、後置詞句に限り、副詞句相当語句および数量詞相当語句には付与しない。そのため、当該の述語にとって意味的に深層格に該当する副詞句、数量詞句がある場合でも、省略格を補完する。

THS32003-0330-1 …すばらしい思い出ができますようにお祈りしております。

##### =====  
副詞句相当語句 [AGEN][OBJE]を補完

・提題格 [TOPIC]

次の場合に限って [TOPIC] を付与した。

「象は鼻が長い」のような「CはAがBである」の構文であり、述語が形容詞か形容名詞であること。

例：TCC22073-0020-2 ちょっと連れの者が調子が悪くなりまして。

----- =====  
TOPIC OBJE

・受身および使役表現の扱い

受身、使役表現では、述語本来の格パターンを保存する。

受身の例：「選ぶ」

TDS32007-0160-1 わたくし、幹事に選ばれたばかりで、…

----- =====  
OBJE ROLE [AGEN]を補完

例外に「含む」→「含ま(れる)」がある。能動文では次のような格パターンである。

例：この料金は税金を含む

----- =====  
AGEN OBJE

「含む」は特殊な動詞で、頻繁に「含まれている」で状態を表す述語句となるため、受動態の場合に限り、AGEN を LOCT にしている。

TAC22011-0320-1 朝食はご用意できますが、宿泊料金には含まれておりませんので。

----- =====  
LOCT [OBJE]を補完し、[AGEN]は補完しない

使役の例：「スタート|する」

TCS12024-0130-1 何時からパーティーをスタートさせますか。

----- =====  
OBJE

上の例の「スタート」は自動詞なので、格はOBJE だけである。

形態素解析の結果、使役の意味まで含んでいる述語がある。(例：「飲ませ(る)」「見せ(る)」「喜ばせ(る)」) この場合、述語の動作対象が存在するので、AGEN, OBJE, RECP の格パターンとする。













### 3.6.2 「する」（「いたす」）

「する」はさまざまな格パターンで出現するため、基本的に自動詞では OBJE、他動詞では AGEN, OBJE を必須格とみなす。それぞれのバリエーションを以下に挙げる。

自動詞の例：

TAS33014-0120-2 ところで、和室の方はいくらぐらいしますか。

-----  
OBJE

TCS32005-0080-1 そしてしばらくしたら右手の方にお店が見えてきますよ。

==  
[OBJE]を補完

TAS32007-0060-2 しかしまだ一人予定が、はっきりしていないんです。

-----  
OBJE

THS33001-0160-1 そうでございますね、座席が大変ゆったりとしておりまして、…

-----  
OBJE

自動詞の例外：

TAS32009-0080-1 ゆっくりしたいんで、バス付きをお願いします。

==  
[AGEN]を補完

THS13001-0490-1 うっかりしてました。

==  
[AGEN]を補完

他動詞の例：

・ AGEN, OBJE

TCS22051-0130-1 帰ってきたら林様にお電話をします。

-----  
RECP OBJE [AGEN]を補完

TCS13003-0030-1 テレビをつけようとしたんですけども、画面が映らないんですよ。

==  
[AGEN][OBJE]を補完

TCS32024-0020-1 あした、友達と二人でそちらに行く予定にしているんですが、…

-----  
OBJE [AGEN]を補完

TCS13004-0200-2 それでは代わりにテレビをお持ちすることにいたしますよ。

-----  
OBJE [AGEN]を補完

・ AGEN, OBJE, GOAL

TAS13011-0140-1 二万円と二万一千円、どちらのお部屋に致しますか。

-----  
GOAL [AGEN][OBJE]を補完

TAS32003-0210-2 それから、料金は会社払いにしていただけませんか。

-----  
OBJE GOAL [AGEN]を補完

・ AGEN, OBJE, RESL

TAS32012-0090-1 特別な、記念でいらっしゃいますので、…五百ドルにさせていただきますが。

-----  
RESL [AGEN][OBJE]を補完

TCS32011-0050-2 だから重さにすると、四十から五十ポンドぐらいかしら。

-----  
RESL [AGEN][OBJE]を補完

TCS12003-0060-1 オンにすると一瞬つくんですが、パッと消えてしまうんですね。

-----  
RESL [AGEN][OBJE]を補完

TCS13017-0040-1 部屋に置きっぱなしにしてなかったでしょうか。

-----  
LOCT RESL [AGEN][OBJE]を補完

・ AGEN, OBJE, MANN

TAS12006-0030-2 いつもごひいきにいただきましてありがとうございます。

-----  
MANN [AGEN][OBJE]を補完



1. 「それまでとは違う物・違う状態に変わる」の意味 → OBJE, RESL

[TRS12002-110-1  
 [依存構造解析出力  
 [[見出しリスト(:LIST。)]  
 [品詞リスト(:LIST<句点>)]  
 [ヘッド[[見出し。]  
 [品詞<句点>]]  
 [引数[[見出しリスト(:LISTます)]  
 [品詞リスト(:LIST<助動詞語幹><語尾>)]  
 [ヘッド[[見出しま  
 [品詞<助動詞語幹>]]]  
 [引数[[見出しリスト(:LISTており)]  
 [品詞リスト(:LIST<助動詞語幹><語尾>)]  
 [ヘッド[[見出してお]  
 [品詞<助動詞語幹>]]]  
 [引数[[見出しリスト(:LISTなっ)]  
 [品詞リスト(:LIST<本動詞><語尾>)]  
 [ヘッド[[見出しな]  
 [品詞<本動詞>]]]  
 [RESL[[見出しリスト(:LISTと)]  
 [品詞リスト(:LIST<格助詞>)]  
 [ヘッド[[見出しと]  
 [品詞<格助詞>]]]  
 [引数[[見出しリスト(:LIST満席)]  
 [品詞リスト(:LIST<普通名詞>)]  
 [ヘッド[[見出し満席  
 [品詞<普通名詞>]]]]]]]]  
 [引数[[見出しリスト(:LISTすべて)]  
 [品詞リスト(:LIST<副詞>)]  
 [ヘッド[[見出しすべて  
 [品詞<副詞>]]]]]  
 [OBJE[[見出しリスト(:LISTは)]  
 [品詞リスト(:LIST<係助詞>)]  
 [ヘッド[[見出しは]  
 [品詞<係助詞>]]]  
 [引数[[見出しリスト(:LIST席)]  
 [品詞リスト(:LIST<普通名詞>)]  
 [ヘッド[[見出し席  
 [品詞<普通名詞>]]]  
 [引数[[見出しリスト(:LISTの)]  
 [品詞リスト(:LIST<連体助詞>)]  
 [ヘッド[[見出しの  
 [品詞<連体助詞>]]]  
 [引数[[見出しリスト(:LIST五月三日)]  
 [品詞リスト(:LIST<日時><日時>)]  
 [ヘッド[[見出し三日  
 [品詞<日時>]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]  
 [引数[[見出しリスト(:LISTが、)]  
 [品詞リスト(:LIST<接続助詞><読点>)]  
 [ヘッド[[見出しが]  
 [品詞<接続助詞>]]]  
 [引数[[見出しリスト(:LISTすいません)]  
 [品詞リスト(:LIST<感動詞>)]  
 [ヘッド[[見出しすいません  
 [品詞<感動詞>]]]]]  
 [引数[[見出しリスト(:LIST誠に)]  
 [品詞リスト(:LIST<副詞>)]  
 [ヘッド[[見出し誠に  
 [品詞<副詞>]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]



### 3.6.4 「願う」

旅行会話に出現する「願う」は、大きく5通りの意味に分類できる。

それぞれの場合を考慮した結果、「願う」の格パターンを、AGEN, OBJE, RECP とした。

#### 1. 慣用的な「お願いします」

のちに1語で感動詞となったが、初期のデータでは分割されていた。

[TAS13002-490-1

[依存構造解析出力

[[見出しリスト (:LIST 。)]]

[品詞リスト (:LIST <句点>)]

[ヘッド [[見出し。]

[品詞 <句点>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST ます)]

[品詞リスト (:LIST <助動詞語幹> <語尾>)]

[ヘッド [[見出しま]

[品詞 <助動詞語幹>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST いたし)]

[品詞リスト (:LIST <補助動詞語幹> <語尾>)]

[ヘッド [[見出しいた]

[品詞 <補助動詞語幹>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST お願ひ)]

[品詞リスト (:LIST <接頭辞> <本動詞> <語尾>)]

[ヘッド [[見出し願]

[品詞 <本動詞>]]]

[AGEN NI1]

[OBJE NIL]

[RECP NIL]]]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST はい、)]

[品詞リスト (:LIST <感動詞> <読点>)]

[ヘッド [[見出しはい]

[品詞 <感動詞>]]]]]]]]]]]











### 3.7 形容詞、形容名詞の格パターン

形容詞、形容名詞の格パターンは、準拠にできる資料が少ないため、日本語基本辞書 (Ver.1) [3] の形容詞、形容名詞を参考にして、以下のように分類した。

- a. 属性・状態を表す述語
- b. 感情を表す述語
- c. 語義によって a, b のいずれかになる述語

以下にそれぞれの例を示す。

- a. 属性・状態を表す述語

OBJE を必須格とする。

例：形容詞…高い、古い

コネクティングルームの方が、思ってたより高かったんですけども。

-----  
OBJE

少しタイプは古いんですが、十分映ると思います。

-----  
OBJE

形容名詞…必要だ、大丈夫だ

あと、ディスクが必要なんですけれども、それもお借りできますか。

-----  
OBJE

ごはんのほうは大丈夫かと思っています。

-----  
OBJE

- b. 感情を表す述語

EXPR, OBJE を必須格とする。

例：形容詞…ほしい、うれしい

安い化粧品とか、雑貨がほしいんですけど。

-----  
OBJE [EXPR]を補完

朝八時に来てもらえれば、うれしいんですけども。

-----  
[EXPR][OBJE]を補完

形容名詞…好きだ、いやだ

サッカーが好きなんですよ。

-----  
OBJE [EXPR]を補完

移動するためにわざわざ着替えるのもいやですよ。

-----  
OBJE [EXPR]を補完

c. 語義によって a, b のいずれかになる述語

「いい」「よい」「よろしい」(形容詞)、「結構」(形容名詞)が、話し言葉で用いられる場合は、「～を好む」「～で構わない」など、ある条件に対する自分の意志を伝えたり、相手の意向を確認する意味で用いられることが圧倒的に多い。そこで、格パターンは、c-1. 属性・状態を表す場合(OBJEをとる)と、c-2. 感情を表す場合(EXPR, OBJEをとる)の場合の2種類を設定したが、c-1.の意味で用いられるのは、名詞句を修飾する場合に限るといってもいいほどである。

c-1. 属性・状態を表す場合

「いい」

できるだけ豪華で雰囲気の良いレストランをさがしています。

-----  
OBJE

「よろしい」

いつご都合がよろしいですか。

-----  
OBJE

お電話番号が二二三の一二三四でよろしいでしょうか。

-----  
OBJE COND

移民博物館をお尋ねになるのもよろしいかと思えます。

-----  
OBJE

次のような例もある：

TAS13013-0220-1 お客様のお名前をよろしいでしょうか。

-----  
OBJE

c-2. 感情を表す場合

「いい」

いや、もうごはんだけでいいです。

-----  
COND [EXPR][OBJE]を補完

イタリア料理がいいかと思ってるんですけども。

-----  
OBJE [EXPR][OBJE]を補完

「よろしい」

お客様は一泊延長ということでよろしゅうございますか。

-----  
EXPR COND [OBJE]を補完

「結構」

日には変えられないので、立食パーティーで結構です。

-----  
COND [EXPR][OBJE]を補完

### 3.8 日本語基本辞書：動詞編（「動詞辞書（Ver. 2）」）と異なる格名を付与した述語

「動詞辞書（Ver. 2）」と異なる格名を付与した述語は以下の通り。

見出し語：いらっしゃる

語義：「いる」ということを、尊敬する人の状態として、敬って言うときの言葉

「が」格 AGEN → OBJE へ

TCC23021-0200-2

夕方までにはお返事できると思いますが、夕方にはお部屋にいらっしゃいますでしょうか。

-----  
LOCT [OBJE]を補完

見出し語：こだわる

語義：どうでもいいようなことを、ぐずぐずといつまでも気にする。

「が」格 AGEN → EXPR へ

TBS13003-130-1

特にそれにこだわってるっていうわけじゃないんですよ。

-----  
OBJE [EXPR]を補完

見出し語：出来る

語義：なにかをする能力や可能性がある

「に」格 EXPR → AGEN へ

TAS13017-0050-1

はい、まずパーティ料理を、ルームサービスでお楽しみいただくことができます。

-----  
OBJE [AGEN]を補完

ただし、「姉は数学がよくできる」の場合の「姉は」には EXPR を付与する。

見出し語：成る

語義：ある結果を生じる。結局…である。

「に」格 OBJE -> RESL へ それに伴って、省略格の OBJE を追加。

TCC23093-0050-1

申し訳ございませんが、メニューに載っているものだけをお出しすることになっております。

-----  
RESL

[OBJE]を補完



## 参考文献

- [1] 浦谷則好, 竹澤寿幸, 松尾秀彦, 森田千帆, "音声言語データベースの構成" TR-IT-0056, エイ・ティ・アール音声翻訳通信研究所, 1994.5
- [2] 荒川直哉, 巖寺俊哲, "日本語基本辞書 (Ver.2) 動詞編マニュアル" TR-IT-0219, エイ・ティ・アール音声翻訳通信研究所, 1997.5
- [3] 永田昌明, 衛藤純司, "日本語基本辞書の概要" TR-I-0250, エイ・ティ・アール自動翻訳電話研究所, 1992.3
- [4] 永田昌明, 衛藤純司, "日本語基本辞書の意味情報に関する検討" TR-I-0251, エイ・ティ・アール自動翻訳電話研究所, 1992.3
- [5] 井ノ上直己, 小倉健太郎, 森元逞, "言語データベース用格・係り受け意味体系" TR-I-0029, エイ・ティ・アール自動翻訳電話研究所, 1988.8
- [6] 田代敏久, 竹澤寿幸, "音声言語データベースにおける構文解析情報付与作業マニュアル" TR-IT-0083, エイ・ティ・アール音声翻訳通信研究所, 1994.12
- [7] 益岡隆志, 田窪行則, "基礎日本語文法 改訂版", くろしお出版, 1994
- [8] 松村明編, "大辞林", 三省堂, 1988

## 謝辞

日本語依存構造・格構造データファイルおよび本レポートの作成は日本アイアール株式会社に負うところが大きい。日本アイアールの担当者、坂口明子氏にこの場を借りて感謝いたします。

# 付録

## 1 依存解析ルール

```
;; <タイプ1>
;;
((<文> <--> (<節> <句点>)) TYPE-1 ) ; 。
((<文> <--> (<節> <感嘆符>)) TYPE-1 ) ; !
((<文> <--> (<節> <疑問符>)) TYPE-1 ) ; ?
;;
((<節> <--> (<感動詞> <節>)) TYPE-1 )
((<節> <--> (<接続詞> <節>)) TYPE-1 )
((<節> <--> (<文副詞> <節>)) TYPE-1 )
((<節> <--> (<副詞節> <節>)) TYPE-1 )
((<節> <--> (<連用接続節> <節>)) TYPE-1 )
((<感動詞> <--> (<副詞句> <感動詞>)) TYPE-1 ) ; どうも/ありがとう
((<感動詞> <--> (<後置詞句> <感動詞>)) TYPE-1 ) ; こちらこそ/ありがとう
((<連体修飾節> <--> (<連用接続節> <連体修飾節>)) TYPE-1 ) ; 友人で/参加できない[者]
((<連体修飾節> <--> (<副詞節> <連体修飾節>)) TYPE-1 ) ; こちらにいらして/登録をなさる[時]
((<連体修飾節> <--> (<連体詞句> <助動詞>)) TYPE-1 ) ; 割引という/ような[もの]
((<動詞句> <--> (<動詞> <助動詞>)) TYPE-1 )
((<動詞句> <--> (<動詞> <補助動詞>)) TYPE-1 )
((<動詞句> <--> (<動詞句> <助動詞>)) TYPE-1 )
((<動詞句> <--> (<動詞句> <補助動詞>)) TYPE-1 )
((<動詞句> <--> (<形容詞> <助動詞>)) TYPE-1 ) ; おいし/そうだ
((<動詞句> <--> (<動詞> <係助詞>)) TYPE-1 ) ; 走り/は[しない]
((<動詞句> <--> (<動詞句> <係助詞>)) TYPE-1 ) ; 見たく/も
((<動詞句> <--> (<動詞> <副助詞>)) TYPE-1 ) ; 見る/しか[ありません]
((<動詞句> <--> (<動詞句> <副助詞>)) TYPE-1 ) ; 見ていただく/しか[ありません]
((<動詞句> <--> (<動詞> <終助詞>)) TYPE-1 )
((<動詞句> <--> (<動詞句> <終助詞>)) TYPE-1 )
;
((<動詞> <--> (<動詞> <接尾辞>)) TYPE-1 ) ; 分かり/っこ[ない]
((<本動詞> <--> (<本動詞> <接尾辞>)) TYPE-1 ) ; 決め/かね[る]
((<本動詞> <--> (<動詞> <接尾辞>)) TYPE-1 ) ; 言い出し/かね[る]
((<本動詞> <--> (<形容詞> <接尾辞>)) TYPE-1 ) ; 悲し/すぎ[る]
;
((<動詞> <--> (<後置詞句> <動詞>)) TYPE-1 )
((<動詞> <--> (<数量詞> <動詞>)) TYPE-1 )
((<動詞> <--> (<副詞句> <動詞>)) TYPE-1 )
((<動詞> <--> (<連用修飾> <動詞>)) TYPE-1 )
;
((<動詞> <--> (<後置詞句> <形容詞>)) TYPE-1 ) ; お菓子が/おいし[そうだ]
((<動詞> <--> (<副詞句> <形容詞>)) TYPE-1 ) ; とても/おいし[そうだ]
((<動詞> <--> (<連用修飾> <形容詞>)) TYPE-1 ) ; すごく/よさ[そうだ]
;
((<動詞> <--> (<後置詞句> <サ変名詞>)) TYPE-1 )
((<動詞> <--> (<副詞句> <サ変名詞>)) TYPE-1 )
((<動詞> <--> (<数量詞> <サ変名詞>)) TYPE-1 )
((<動詞> <--> (<連用修飾> <サ変名詞>)) TYPE-1 )
((<動詞句> <--> (<サ変名詞> <補助動詞>)) TYPE-1 ) ; 参加する
;
((<動詞> <--> (<後置詞句> <形容名詞>)) TYPE-1 )
((<動詞> <--> (<副詞句> <形容名詞>)) TYPE-1 )
```

((<動詞> <--> (<数量詞> <形容名詞>)) TYPE-1 )  
 ((<動詞> <--> (<連用修飾> <形容名詞>)) TYPE-1 )  
 ((<動詞句> <--> (<形容名詞> <助動詞>)) TYPE-1 ) ; 必要/です  
 ;  
 ((<動詞> <--> (<名詞句> <助動詞>)) TYPE-1 ) ; 会議/です  
 ((<動詞> <--> (<後置詞句> <助動詞>)) TYPE-1 ) ; 京都から/です  
 ((<動詞> <--> (<副詞句> <助動詞>)) TYPE-1 ) ; まだ/です  
 ((<動詞句> <--> (<副詞節> <助動詞>)) TYPE-1 ) ; 会議に申し込みたいから/です  
 ((<動詞句> <--> (<名詞節> <助動詞>)) TYPE-1 ) ; 会議に参加したいの/です  
 ;  
 ((<副詞節> <--> (<節> <接続助詞>)) TYPE-1 ) ; 参加すれば  
 ((<副詞節> <--> (<形容名詞> <接続助詞>)) TYPE-1 ) ; 小規模/ながら  
 ((<副詞節> <--> (<副詞節> <係助詞>)) TYPE-1 ) ; 終わってから/は  
 ((<副詞節> <--> (<副詞節> <格助詞>)) TYPE-1 ) ; 終わってから/で  
 ((<副詞句> <--> (<節> <格助詞>)) TYPE-1 ) ; 参加する/[は]、参加する/より[も]  
 ((<副詞句> <--> (<節> <副助詞>)) TYPE-1 ) ; 走る/くらい[簡単だ]  
 ;  
 ;以下の3つの規則は現在は使われていない  
 ((<副詞句> <--> (<動詞> <接尾辞>)) TYPE-1 ) ; 申し込み/しだい  
 ((<副詞句> <--> (<動詞句> <接尾辞>)) TYPE-1 ) ; 確認でき/しだい  
 ((<副詞句> <--> (<サ変名詞> <接尾辞>)) TYPE-1 ) ; 確認/しだい  
 ;  
 ((<副詞句> <--> (<副詞> <格助詞>)) TYPE-1 ) ; いろいろ/と  
 ((<副詞句> <--> (<副詞> <係助詞>)) TYPE-1 ) ; 一応/は  
 ((<副詞句> <--> (<副詞> <副助詞>)) TYPE-1 ) ; 是非/とも  
 ((<文副詞> <--> (<感動詞> <接続助詞>)) TYPE-1 ) ; すみません/が  
 ((<連用修飾> <--> (<連用修飾> <係助詞>)) TYPE-1 ) ; 詳しく/は[地図を送ります]  
 ((<連用修飾> <--> (<名詞句> <連用修飾>)) TYPE-1 ) ; 間違い/なく[登録する]  
 ;  
 ((<副詞句> <--> (<連体修飾節> <副詞的名詞>)) TYPE-1 ) ; 参加する/場合  
 ((<副詞句> <--> (<連体詞句> <副詞的名詞>)) TYPE-1 ) ; 参加の/場合  
 ((<副詞句> <--> (<普通名詞> <副詞的名詞>)) TYPE-1 ) ; 会議/後  
 ((<副詞句> <--> (<サ変名詞> <副詞的名詞>)) TYPE-1 ) ; 登録/後  
 ((<副詞句> <--> (<副詞句> <格助詞>)) TYPE-1 ) ; ご記入の上/で  
 ((<副詞句> <--> (<副詞句> <係助詞>)) TYPE-1 ) ; 参加する/[は]  
 ((<副詞句> <--> (<副詞句> <副助詞>)) TYPE-1 ) ; 参加する場合/でも  
 ;  
 ((<後置詞句> <--> (<名詞句> <格助詞>)) TYPE-1 )  
 ((<後置詞句> <--> (<名詞句> <係助詞>)) TYPE-1 )  
 ;  
 ((<後置詞句> <--> (<名詞節> <格助詞>)) TYPE-1 ) ; 参加するの/に  
 ((<後置詞句> <--> (<名詞節> <係助詞>)) TYPE-1 ) ; 参加するの/は  
 ((<後置詞句> <--> (<名詞節> <副助詞>)) TYPE-1 ) ; 参加するの/か  
 ((<後置詞句> <--> (<節> <引用助詞>)) TYPE-1 ) ; 参加したい/と[思う]  
 ((<後置詞句> <--> (<節> <副助詞>)) TYPE-1 ) ; 発表する/など[できない]  
 ((<後置詞句> <--> (<後置詞句> <係助詞>)) TYPE-1 ) ; 会議に/は、も  
 ((<後置詞句> <--> (<後置詞句> <副助詞>)) TYPE-1 ) ; 会議に/など  
 ((<後置詞句> <--> (<後置詞句> <格助詞>)) TYPE-1 ) ; 五時まで/と[なっている]  
 ((<連体詞句> <--> (<名詞句> <連体助詞>)) TYPE-1 )  
 ((<連体詞句> <--> (<副詞句> <連体助詞>)) TYPE-1 )  
 ((<連体詞句> <--> (<後置詞句> <連体助詞>)) TYPE-1 ) ; から/の  
 ((<連体詞句> <--> (<節> <連体助詞>)) TYPE-1 ) ; お返りする/という/こと  
 ((<連体詞句> <--> (<名詞句> <並立助詞>)) TYPE-1 )

((<名詞句> <--> (<連体詞句> <準体助詞>)) TYPE-1 ) ; 参加するというの  
 ((<名詞句> <--> (<連体詞句> <名詞句>)) TYPE-1 ) ; 会議の/日程  
 ((<名詞句> <--> (<連体修飾節> <名詞句>)) TYPE-1 )  
 ((<名詞節> <--> (<連体修飾節> <準体助詞>)) TYPE-1 )  
 ;  
 ((<名詞句> <--> (<動詞> <接尾辞>)) TYPE-1 ) ; 置き/つばなし  
 ((<名詞句> <--> (<動詞句> <接尾辞>)) TYPE-1 ) ; 放置し/つばなし  
 ((<名詞句> <--> (<形容詞> <接尾辞>)) TYPE-4 ) ; よ/さ -> changed 4/24  
 ((<名詞句> <--> (<節> <副助詞>)) TYPE-1 ) ; 聞いている/だけ[でいい]  
 ((<番地連体詞句> <--> (<番地要素> <連体助詞>)) TYPE-1 )  
 ((<番地連体詞句> <--> (<複合番地要素> <連体助詞>)) TYPE-1 )  
 ((<複合番地要素> <--> (<番地連体詞句> <番地要素>)) TYPE-1 )  
 ((<住所> <--> (<住所> <番地要素>)) TYPE-1 )  
 ((<住所> <--> (<住所> <複合番地要素>)) TYPE-1 )  
 ((<住所> <--> (<住所> <区画番地>)) TYPE-1 )  
 ((<住所> <--> (<住所> <複合区画番地>)) TYPE-1 )  
 ((<住所> <--> (<住所> <姓名>)) TYPE-1 )  
 ;  
 ((<名詞句> <--> (<副詞> <名詞句>)) TYPE-1 ) ; すぐ/隣  
 ((<名詞句> <--> (<形容名詞> <名詞句>)) TYPE-1 ) ; 同じ/分野  
 ;  
 ((<態の動詞句> <--> (<後置詞句> <態の動詞句>)) TYPE-1 )  
 ((<態の動詞句> <--> (<副詞句> <態の動詞句>)) TYPE-1 )  
 ((<態の動詞句> <--> (<数量詞> <態の動詞句>)) TYPE-1 )  
 ((<態の動詞句> <--> (<連用修飾> <態の動詞句>)) TYPE-1 )  
 ((<動詞句> <--> (<態の動詞句> <助動詞>)) TYPE-1 )  
 ((<動詞句> <--> (<態の動詞句> <補助動詞>)) TYPE-1 )  
 ;  
 ((<文副詞> <--> (<副詞> <文副詞>)) TYPE-1 ) ; ちょっと/お尋ねしますが  
 ((<副詞句> <--> (<副詞> <副詞句>)) TYPE-1 ) ; ちょうど/募集中[です]  
 ((<数量詞> <--> (<副詞> <数量詞>)) TYPE-1 ) ; もう/一度  
 ((<連用修飾> <--> (<副詞> <連用修飾>)) TYPE-1 ) ; もう少し/具体的に  
 ((<副詞句> <--> (<節> <接続助詞>)) TYPE-1 ) ; どうやって/[行く]  
 ((<連体詞句> <--> (<副詞> <連体詞句>)) TYPE-1 ) ; かなり/大きな  
 ;;  
 ;; <タイプ2>  
 ;; 現在は該当規則なし  
 ;;  
 ;; <タイプ3>  
 ;;  
 ((<動詞> <--> (<本動詞> <語尾>)) TYPE-3 )  
 ((<動詞> <--> (<形容詞> <語尾>)) TYPE-3 )  
 ;  
 ((<助動詞> <--> (<助動詞語幹> <語尾>)) TYPE-3 )  
 ((<補助動詞> <--> (<補助動詞語幹> <語尾>)) TYPE-3 )  
 ;  
 ((<助動詞語幹> <--> (<接続助詞> <補助動詞語幹>)) TYPE-3 ) ; て/い[る]  
 ((<助動詞語幹> <--> (<接続助詞> <補助動詞語幹>)) TYPE-3 ) ; て/い[る]  
 ((<助動詞> <--> (<接続助詞> <補助動詞語幹>)) TYPE-3 ) ; て/い[ます]  
 ;  
 ((<態の助動詞> <--> (<使役助動詞語幹> <受身助動詞語幹>)) TYPE-3 ) ; 書か/せ/られ/ました  
 ((<態の助動詞> <--> (<使役助動詞語幹> <態の助動詞>)) TYPE-3 ) ; 書か/せ/られ/る  
 ((<態の助動詞> <--> (<使役助動詞語幹> <語尾>)) TYPE-3 )

((<態の助動詞> <--> (<受身助動詞語幹> <語尾>)) TYPE-3 )  
 ((<態の動詞> <--> (<本動詞> <語尾>)) TYPE-3 )  
 ((<態の動詞> <--> (<サ変名詞> <補助動詞>)) TYPE-3 )  
 ((<態の動詞句> <--> (<態の動詞> <態の助動詞>)) TYPE-3 )  
 ;  
 ((<連用修飾> <--> (<形容詞> <語尾>)) TYPE-3 ) ; 楽し/く  
 ((<連用修飾> <--> (<形容名詞> <助動詞>)) TYPE-3 ) ; 愉快/に  
 ;  
 ((<格助詞> <--> (<格助詞> <格助詞>)) TYPE-3 ) ; まで/に  
 ((<副助詞> <--> (<副助詞> <副助詞>)) TYPE-3 ) ; ばかり/か  
 ((<引用助詞> <--> (<引用助詞> <引用助詞>)) TYPE-3 ) ; と/、/か  
 ;  
 ; 読点との接続規則  
 ((<接続詞> <--> (<接続詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<副詞> <--> (<副詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<文副詞> <--> (<文副詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<感動詞> <--> (<感動詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<本動詞> <--> (<本動詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<形容詞> <--> (<形容詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<語尾> <--> (<語尾> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<補助動詞> <--> (<補助動詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<補助動詞語幹> <--> (<補助動詞語幹> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<助動詞> <--> (<助動詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<助動詞語幹> <--> (<助動詞語幹> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<使役助動詞語幹> <--> (<使役助動詞語幹> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<受身助動詞語幹> <--> (<受身助動詞語幹> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<名詞句> <--> (<名詞句> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<形容名詞> <--> (<形容名詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<サ変名詞> <--> (<サ変名詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<普通名詞> <--> (<普通名詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<固有名詞> <--> (<固有名詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<代名詞> <--> (<代名詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<副詞的名詞> <--> (<副詞的名詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<数詞> <--> (<数詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<接頭辞> <--> (<接頭辞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<接尾辞> <--> (<接尾辞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<人名> <--> (<人名> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<住所名> <--> (<住所名> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<日時> <--> (<日時> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<連体詞> <--> (<連体詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<係助詞> <--> (<係助詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<格助詞> <--> (<格助詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<副助詞> <--> (<副助詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<引用助詞> <--> (<引用助詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<準体助詞> <--> (<準体助詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<接続助詞> <--> (<接続助詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<連体助詞> <--> (<連体助詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<並立助詞> <--> (<並立助詞> <読点>)) TYPE-3 )  
 ((<終助詞> <--> (<終助詞> <読点>)) TYPE-3 )

;;  
;; <タイプ4>  
;;  
((<本動詞> <--> (<接頭辞> <本動詞>)) TYPE-4 )  
((<形容詞> <--> (<接頭辞> <形容詞>)) TYPE-4 )  
((<サ変名詞> <--> (<接頭辞> <サ変名詞>)) TYPE-4 )  
((<形容名詞> <--> (<接頭辞> <形容名詞>)) TYPE-4 )  
;  
((<副詞句> <--> (<代名詞> <副助詞>)) TYPE-1 ) ; 誰/か、何/か  
((<副詞句> <--> (<代名詞> <副助詞>)) TYPE-4 ) ; どれ/ぐらい  
;  
((<副詞句> <--> (<代名詞> <接尾辞>)) TYPE-4 ) ; どちら/とも  
((<副詞句> <--> (<普通名詞> <接尾辞>)) TYPE-4 ) ; 何時/ごろ  
;  
((<名詞句> <--> (<名詞句> <副助詞>)) TYPE-4 ) ; ツアー/など[が] 六時/ぐらい[に]  
((<名詞句> <--> (<代名詞> <準体助詞>)) TYPE-4 ) ; 僕/[だ]  
((<名詞句> <--> (<数量詞> <準体助詞>)) TYPE-4 ) ; 八時間/[だ]  
;  
((<名詞句> <--> (<人名> <接尾辞>)) TYPE-4 ) ; 長尾/様  
((<名詞句> <--> (<人名> <普通名詞>)) TYPE-4 ) ; 細川/首相  
((<名詞句> <--> (<姓名> <接尾辞>)) TYPE-4 ) ; 鈴木真弓/様  
((<名詞句> <--> (<姓名> <普通名詞>)) TYPE-4 ) ; 長尾真/教授  
((<名詞句> <--> (<固有名詞> <接尾辞>)) TYPE-4 ) ; 「兵庫/県[の出身]」  
;  
((<接尾辞> <--> (<接尾辞> <接尾辞>)) TYPE-4 ) ; [三]ヶ/月  
((<数詞> <--> (<接頭辞> <数詞>)) TYPE-4 ) ; 単/一  
((<数量詞> <--> (<接頭辞> <数量詞>)) TYPE-4 ) ; 約/十五分  
((<数量詞> <--> (<数詞> <接尾辞>)) TYPE-4 ) ; 一/人  
((<数量詞> <--> (<数詞> <普通名詞>)) TYPE-4 ) ; 一/部屋  
((<数量詞> <--> (<数量詞> <接尾辞>)) TYPE-4 ) ; 一人/用  
((<数量詞> <--> (<数量詞> <副助詞>)) TYPE-4 ) ; 二十人/ほど  
((<数量詞> <--> (<数量詞> <数量詞>)) TYPE-4 ) ; 一泊/二万円  
;;  
((<日時> <--> (<数詞> <接尾辞>)) TYPE-4 ) ; [平成]五/年、千九百九十三/年  
((<日時> <--> (<固有名詞> <日時>)) TYPE-4 ) ; 平成/五年  
((<日時> <--> (<日時> <普通名詞>)) TYPE-4 ) ; 十二時/半  
((<日時> <--> (<普通名詞> <日時>)) TYPE-4 ) ; 午後/六時  
((<日時> <--> (<日時> <接尾辞>)) TYPE-4 ) ; 四時/頃  
((<日時> <--> (<日時> <副助詞>)) TYPE-4 ) ; 四時/ぐらい  
((<複合日時> <--> (<日時> <日時>)) TYPE-4 )  
((<複合日時> <--> (<複合日時> <日時>)) TYPE-4 )  
((<複合日時> <--> (<普通名詞> <複合日時>)) TYPE-4 ) ; 午後/十時十分  
;;  
((<姓名> <--> (<人名> <人名>)) TYPE-4 ) ; 鈴木/真弓  
((<住所要素> <--> (<住所名> <接尾辞>)) TYPE-4 ) ; 東京/都  
((<住所> <--> (<住所要素> <住所要素>)) TYPE-4 )  
((<住所> <--> (<住所> <住所要素>)) TYPE-4 )  
((<区画番地> <--> (<数詞> <接尾辞>)) TYPE-4 )  
((<複合区画番地> <--> (<区画番地> <区画番地>)) TYPE-4 )  
((<複合区画番地> <--> (<複合区画番地> <区画番地>)) TYPE-4 )

```

;;
;; <タイプ0>
;;
((<節> <--> (<動詞>)) TYPE-0 )
((<節> <--> (<動詞句>)) TYPE-0 )
((<節> <--> (<感動詞>)) TYPE-0 )
((<連用接続節> <--> (<動詞>)) TYPE-0 ) ; 会議に申し込み、
((<連用接続節> <--> (<動詞句>)) TYPE-0 ) ; 会議に参加し、
((<連体修飾節> <--> (<動詞>)) TYPE-0 ) ; 読む[本]
((<連体修飾節> <--> (<動詞句>)) TYPE-0 ) ; 読んだ[本]
((<動詞> <--> (<本動詞>)) TYPE-0 )
((<助動詞> <--> (<助動詞語幹>)) TYPE-0 )
((<補助動詞> <--> (<補助動詞語幹>)) TYPE-0 )
((<副詞句> <--> (<副詞>)) TYPE-0 )
((<連体詞句> <--> (<連体詞>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<普通名詞>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<固有名詞>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<代名詞>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<サ変名詞>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<人名>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<姓名>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<数詞>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<数量詞>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<日時>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<複合日時>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<住所>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<住所名>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<番地要素>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<複合番地要素>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<区画番地>)) TYPE-0 )
((<名詞句> <--> (<複合区画番地>)) TYPE-0 )
((<住所要素> <--> (<住所名>)) TYPE-0 ) ; 茶屋町
((<番地要素> <--> (<数詞>)) TYPE-0 )
((<態の助動詞> <--> (<使役助動詞語幹>)) TYPE-0 )
((<態の助動詞> <--> (<受身助動詞語幹>)) TYPE-0 )
((<態の動詞> <--> (<本動詞>)) TYPE-0 )
((<節> <--> (<態の動詞句>)) TYPE-0 )
((<連用接続節> <--> (<態の動詞句>)) TYPE-0 )
((<連体修飾節> <--> (<態の動詞句>)) TYPE-0 )
;;
;; <タイプ5>
;;
;; ((<本動詞> <--> (<普通名詞> <接尾辞> <接尾辞>)) TYPE-5 ) ; 専門的/すぎ[る]
;; ((<姓名> <--> (<人名> <中黒> <人名>)) TYPE-5 ) ; ロバート/./シューマン
;;
;; <複数のタイプを付与した規則>
;;
((<後置詞句> <--> (<名詞句> <副助詞>)) TYPE-1 ) ; こちら/こそ
((<後置詞句> <--> (<名詞句> <副助詞>)) TYPE-4 ) ; 三万/ぐらい、正午/ぐらい
;
((<本動詞> <--> (<動詞> <本動詞>)) TYPE-3 ) ; 複合動詞の場合。書き/忘れ[る]
((<本動詞> <--> (<動詞> <本動詞>)) TYPE-1 ) ; 変化の構文の場合。多く/な[る]
;;

```

```

;; <追加規則>
;;
;; <タイプ1>
;;
((<節> <--> (<節> <節>)) TYPE-1) ; 曖昧性が増える規則
;;
((<動詞> <--> (<名詞句> <動詞>)) TYPE-1) ; 格助詞の省略
((<感動詞> <--> (<名詞句> <感動詞>)) TYPE-1) ; 格助詞の省略
((<感動詞> <--> (<連用修飾> <感動詞>)) TYPE-1)
;;
((<動詞> <--> (<名詞句> <サ変名詞>)) TYPE-1) ; 格助詞の省略
((<動詞> <--> (<名詞句> <形容名詞>)) TYPE-1) ; 格助詞の省略
;;
((<並立助詞句> <--> (<名詞句> <並立助詞>)) TYPE-1) ; 電車/か[バスか]
((<並立助詞句> <--> (<節> <並立助詞>)) TYPE-1) ; 歩く/か[走るか]
;;
((<後置詞句> <--> (<並立助詞句> <格助詞>)) TYPE-1) ; 電車と/で[は]
;;
((<数量詞> <--> (<数量詞> <係助詞>)) TYPE-1)
((<数量詞> <--> (<数量詞> <副詞>)) TYPE-1) ; 百ドル/ちょうど
;;
((<本動詞> <--> (<動詞句> <本動詞>)) TYPE-1) ; 別に/な[る]
;;
((<動詞句> <--> (<接続詞> <終助詞>)) TYPE-1) ; でも/なあ
((<動詞句> <--> (<副詞句> <終助詞>)) TYPE-1)
((<動詞句> <--> (<副詞句> <副助詞>)) TYPE-1) ; 「そう/か。」の場合
((<動詞句> <--> (<副詞節> <終助詞>)) TYPE-1)
((<動詞句> <--> (<名詞句> <終助詞>)) TYPE-1)
;;
((<動詞句> <--> (<後置詞句> <動詞句>)) TYPE-1) ; 値段は/百ドルぐらいかな
;;
((<副詞節> <--> (<サ変名詞> <接続助詞>)) TYPE-1) ; 散歩/がてら
;;
((<日時> <--> (<副詞> <日時>)) TYPE-1)
;;
;; <タイプ4>
;;
((<副詞句> <--> (<名詞句> <副助詞>)) TYPE-4) ; お#いくら/ぐらい
;;
;;((<副詞句> <--> (<名詞句> <接尾辞>)) TYPE-4) ; 和食、洋食/とも --> 1語で<名詞句>に
;;
((<日時> <--> (<日時> <サ変名詞>)) TYPE-4)
;;
((<複合日時> <--> (<日時> <副助詞>)) TYPE-4)
((<複合日時> <--> (<複合日時> <接尾辞>)) TYPE-4)
;;
((<名詞句> <--> (<名詞句> <名詞句>)) TYPE-4) ; 同格の場合。「わたくし/鈴木」「同じ便/二〇一便」
((<複合日時> <--> (<複合日時> <複合日時>)) TYPE-4)
;;
;; <タイプ5>
;;
;;((<名詞句> <--> (<名詞句> <読点> <名詞句>)) TYPE-5) ; 予約係/、鈴木
;;

```



```

;; 1995.4.1 以降規則追加
;;
;; TYPE-1
((<動詞句> <--> (<名詞句> <形容詞>)) TYPE-1) ; 問題/なさ[そうですから]
((<動詞句> <--> (<形容詞> <補助動詞>)) TYPE-1) ; よろしゅう/ございますか
((<動詞句> <--> (<名詞節> <終助詞>)) TYPE-1) ; 行けないの/か[なと思って]
((<態の動詞句> <--> (<名詞句> <態の動詞句>)) TYPE-1) ; わたくし/幹事に選ばれ[たばかりで]
((<副詞> <--> (<連体詞> <副詞>)) TYPE-1) ; ほんの/少し[五番街の方に歩くと]
((<副詞句> <--> (<副詞句> <副詞句>)) TYPE-1) ; [少し]でも/早く[チェックインしたい]
((<副詞節> <--> (<副詞節> <接続助詞>)) TYPE-1) ; ツインのお部屋でしたら/ば[ご用意できます]
((<後置詞句> <--> (<副詞節> <引用助詞>)) TYPE-1) ; チェックインできれば/と[考えている]
((<後置詞句> <--> (<名詞句> <引用助詞>)) TYPE-1) ; 印象に残ること/と[思う]
((<後置詞句> <--> (<後置詞句> <引用助詞>)) TYPE-1) ; 心に残るものを/と[思う]
((<後置詞句> <--> (<並立助詞句> <係助詞>)) TYPE-1) ; テーマなり/は[ございますか]
((<並立助詞句> <--> (<後置詞句> <並立助詞>)) TYPE-1) ; 京都まで/と[比叡山駅からケーブルまで]
;; TYPE-4
((<日時> <--> (<日時> <副詞>)) TYPE-4) ; 十二時/ちょうど
((<日時> <--> (<日時> <サ変名詞>)) TYPE-4) ; 六時/前後
((<複合日時> <--> (<日時> <複合日時>)) TYPE-4) ; 三日/八時二十分
((<複合日時> <--> (<複合日時> <普通名詞>)) TYPE-4) ; 八月十二日/夜
((<名詞句> <--> (<名詞句> <準体助詞>)) TYPE-4) ; 十三時発/の[でお願いします]
((<名詞句> <--> (<名詞句> <副詞>)) TYPE-4) ; お昼/ちょうど[の便]
((<副詞> <--> (<接続辞> <副詞>)) TYPE-4) ; ご/ゆっくり[お休みくださいませ]
;;
;; 1995.9.26 分規則追加
;;
;; TYPE-0
((<動詞句> <--> (<形容名詞>)) TYPE-0) ; それは/残念、[じゃあ~]
((<連用修飾> <--> (<形容名詞>)) TYPE-0) ; [会議室は]さまざま[用意してございます]
;; TYPE-1
((<動詞> <--> (<名詞節> <形容名詞>)) TYPE-1) ; 英語で説明するの/苦手[なんです]
((<動詞句> <--> (<接続詞> <助動詞>)) TYPE-1) ; 実は/ですね
((<動詞句> <--> (<連体詞句> <助動詞>)) TYPE-1) ; 子供の/です[ね、ちょっと様子がおかしいんですよ]
((<副詞句> <--> (<節> <係助詞>)) TYPE-1) ; ダブルもお取り/は[できるんですが]
((<副詞句> <--> (<サ変名詞> <接続助詞>)) TYPE-1) ; 散歩/がてら[お越してください]
((<数量詞> <--> (<副詞句> <数量詞>)) TYPE-1) ; そのうち/一人[は子供です]
((<連用修飾> <--> (<副詞句> <連用修飾>)) TYPE-1) ; できる限り/スムーズに[移りたい]
((<後置詞句> <--> (<副詞句> <引用助詞>)) TYPE-1) ; [そちらで召し上がっては]いかが/かと[存じます]
((<連体詞句> <--> (<連用修飾> <連体詞>)) TYPE-1) ; 非常に/大きな[ショッピングアーケード]
;; TYPE-3
((<連体詞句> <--> (<連体詞句> <終助詞>)) TYPE-3) ; あしたの/ね[朝十時に]
((<並立助詞句> <--> (<並立助詞句> <終助詞>)) TYPE-3) ; ハリウッドの映画のもの/とか/ね
((<後置詞句> <--> (<後置詞句> <終助詞>)) TYPE-3) ; ルームサービスを/ね[お願いしたい]
((<数量詞> <--> (<数量詞> <連用修飾>)) TYPE-3) ; 一月/近く[かかります]
;; TYPE-4
((<複合日時> <--> (<複合日時> <副助詞>)) TYPE-4) ; 九月二十日/ぐらい

```











例2 アメリカらしい文房具とか、||あと||アンティークなものとか、||そういうものを売って  
いるお店を教えてください。

「アメリカらしい文房具とか」「アンティークなものとか」は「そういうもの」と並立関係  
にあるため、格助詞「を」修飾先とする。

[依存構造解析出力

[[見出しリスト (:LIST。)]

[品詞リスト (:LIST <句点>)]

[ヘッド [[見出し。]

[品詞 <句点>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST てください)]

[品詞リスト (:LIST <助動詞語幹> <語尾>)]

[ヘッド [[見出しま]

[品詞 <助動詞語幹>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST 教え)]

[品詞リスト (:LIST <本動詞>)]

[ヘッド [[見出し 教え]

[品詞 <本動詞>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST を)]

[品詞リスト (:LIST <格助詞>)]

[ヘッド [[見出し を]

[品詞 <格助詞>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST お#店)]

[品詞リスト (:LIST <名詞句>)]

[ヘッド [[見出し お#店]

[品詞 <名詞句>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST ている)]

[品詞リスト (:LIST <助動詞語幹> <語尾>)]

[ヘッド [[見出し てい]

[品詞 <助動詞語幹>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST 売っ)]

[品詞リスト (:LIST <本動詞> <語尾>)]

[ヘッド [[見出し 売]

[品詞 <本動詞>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST を)]

[品詞リスト (:LIST <格助詞>)]

[ヘッド [[見出し を]

[品詞 <格助詞>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST もの)]

[品詞リスト (:LIST <普通名詞>)]

[ヘッド [[見出し もの]

[品詞 <普通名詞>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST そうい)]

[品詞リスト (:LIST <連体詞>)]

[ヘッド [[見出し そうい]

[品詞 <連体詞>]]]]]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST とか、)]

[品詞リスト (:LIST <並立助詞> <読点>)]

[ヘッド [[見出し とか]

[品詞 <並立助詞>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST もの)]

[品詞リスト (:LIST <普通名詞>)]

[ヘッド [[見出し もの]

[品詞 <普通名詞>]]]

[引数 [[見出しリスト (:LIST な)]

[品詞リスト (:LIST <助動詞>)]







5. 並立句構成要素の間に接続詞が現れる場合

例 1 試合は||ヤクルトと、||そして||巨人戦がございませす。

「ヤクルトと」は木のルートの「巨人戦」を修飾するとし、接続詞「そして」は、木のルートを修飾先とする。

```
[依存構造解析出力
[[見出しリスト (:LIST 。)]]
 [品詞リスト (:LIST <句点>)]
 [ヘッド [[見出し 。]
 [品詞 <句点>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST ございま す)]
 [品詞リスト (:LIST <本動詞> <語尾>)]
 [ヘッド [[見出し ございま
 [品詞 <本動詞>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST が)]
 [品詞リスト (:LIST <格助詞>)]
 [ヘッド [[見出し が]
 [品詞 <格助詞>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST 巨人#戦)]
 [品詞リスト (:LIST <名詞句>)]
 [ヘッド [[見出し 巨人#戦]
 [品詞 <名詞句>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST と 、)]
 [品詞リスト (:LIST <並立助詞> <読点>)]
 [ヘッド [[見出し と]
 [品詞 <並立助詞>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST ヤクルト)]
 [品詞リスト (:LIST <固有名詞>)]
 [ヘッド [[見出し ヤクルト]
 [品詞 <固有名詞>]]]]]]]]]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST は)]
 [品詞リスト (:LIST <係助詞>)]
 [ヘッド [[見出し は]
 [品詞 <係助詞>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST 試合)]
 [品詞リスト (:LIST <サ変名詞>)]
 [ヘッド [[見出し 試合]
 [品詞 <サ変名詞>]]]]]]]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST そして)]
 [品詞リスト (:LIST <接続詞>)]
 [ヘッド [[見出し そして]
 [品詞 <接続詞>]]]]]]]]]

```



7. 並立表現であるが、並立句構成要素に対応する一方の名詞句がパラフレーズされている場合

例1 大人八人と、子供が七人で、十五名なんです。

本来は、「大人八人と」に対応するのは「子供七人」という名詞句であるが、この場合、「子供が七人(で)」とパラフレーズされている。しかし、修飾先が「(七)人」であることには変わらないので、次のような依存構造にする。

```
[依存構造解析出力
[[見出しリスト (:LIST 。)]
 [品詞リスト (:LIST <句点>)]
 [ヘッド [[見出し 。]
          [品詞 <句点>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST です)]
       [品詞リスト (:LIST <助動词语幹> <語尾>)]
       [ヘッド [[見出し で]
                 [品詞 <助動词语幹>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST ん)]
       [品詞リスト (:LIST <準体助詞>)]
       [ヘッド [[見出し ん]
                 [品詞 <準体助詞>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST な)]
       [品詞リスト (:LIST <助動詞>)]
       [ヘッド [[見出し な]
                 [品詞 <助動詞>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST 十#五 名)]
       [品詞リスト (:LIST <数詞> <接尾辞>)]
       [ヘッド [[見出し 名]
                 [品詞 <接尾辞>]]]]]]]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST で、)]
       [品詞リスト (:LIST <助動詞> <読点>)]
       [ヘッド [[見出し で]
                 [品詞 <助動詞>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST 七 人)]
       [品詞リスト (:LIST <数詞> <接尾辞>)]
       [ヘッド [[見出し 人]
                 [品詞 <接尾辞>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST と)]
       [品詞リスト (:LIST <並立助詞>)]
       [ヘッド [[見出し と]
                 [品詞 <並立助詞>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST 大人#八#人)]
       [品詞リスト (:LIST <名詞句>)]
       [ヘッド [[見出し 大人#八#人]
                 [品詞 <名詞句>]]]]]]]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST が)]
       [品詞リスト (:LIST <格助詞>)]
       [ヘッド [[見出し が]
                 [品詞 <格助詞>]]]
[引数 [[見出しリスト (:LIST 子供)]
       [品詞リスト (:LIST <普通名詞>)]
       [ヘッド [[見出し 子供]
                 [品詞 <普通名詞>]]]]]]]]]]]]]
```

